

上北農業生産情報 第4号

令和8年7月29日
青森県上北農林水産事務所

【農作業中の熱中症に注意しましょう!!】

～令和8年度熱中症予防運動展開中（実施期間：令和8年6月1日～8月31日）～

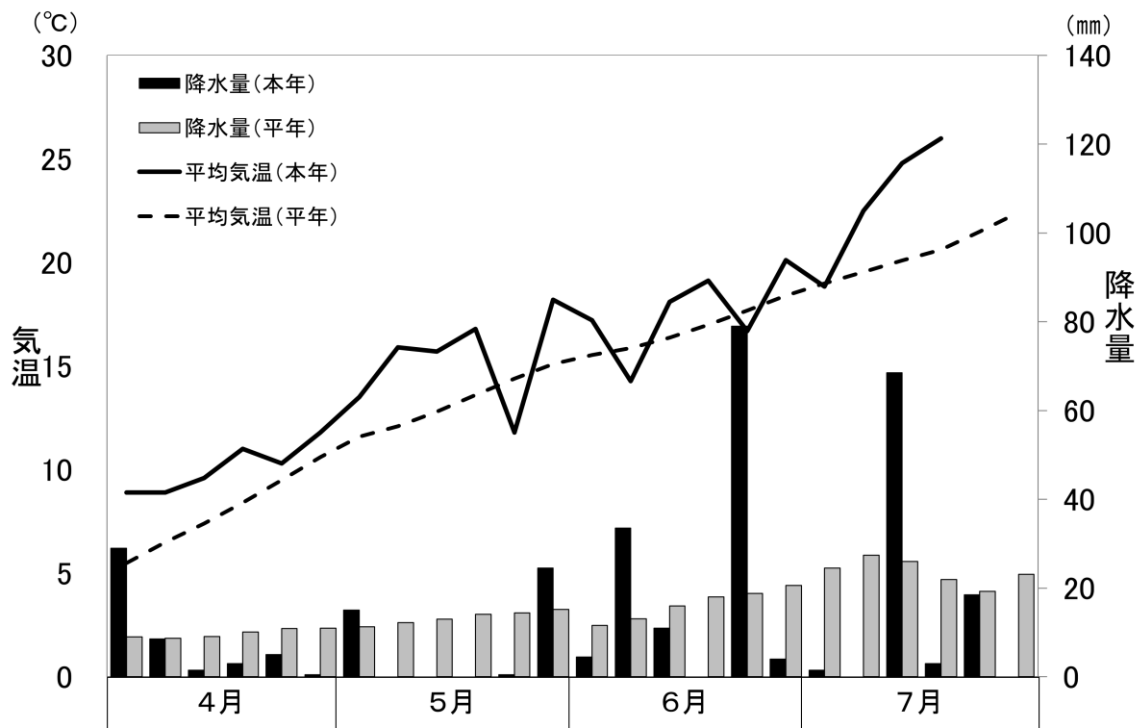
- 高温時の作業は避けましょう。
- こまめな休憩と水分・塩分補給を行いましょう。
- 1人での作業は避け、出かける前に家族に一声かけましょう。
- 熱中症対策グッズ（帽子・空調服等）を活用しましょう。

令和8年度青森県農薬危害防止運動展開中

実施期間：令和8年6月1日～8月31日

- 農薬は使用前に必ずラベルを確認しましょう！
- 周囲に飛散させないようにしましょう！
- クロルピクリン剤を施用したら、必ず「被覆」しましょう！
- 散布器具の洗浄は十分に行い、使用前後に点検しましょう！
- 使用者自らも農薬を浴びないように注意しましょう！
- 施錠して保管し、余った農薬や空き容器は適切に処分しましょう！

気 象



【半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

《6月》

- ・平均気温は、1か月をとおして平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬を除いて平年を上回った。
- ・降水量は、中旬を除いて上回った。
- ・東北北部の梅雨入りは6月21日頃で平年より6日遅く、昨年より2日早かった。
(6月21日、仙台管区气象台発表)

【6月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	15.8	15.7	19.6	20.9	12.3	11.0	39.4	59.7	38.0	24.7
中旬	18.6	16.7	24.5	21.6	14.0	12.6	85.3	48.8	11.0	34.0
下旬	18.4	18.0	22.6	22.7	14.5	14.0	72.1	48.4	83.0	39.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

《7月上・中旬》

- ・平均気温は、上旬・中旬共に平年を上回り、日照時間は、上旬は上回り、中旬は下回った。
- ・降水量は、上旬は平年を下回り、中旬は上回った。

【7月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	20.7	19.3	25.5	23.8	16.7	15.5	56.8	43.8	1.5	51.9
中旬	25.4	20.4	29.1	24.8	22.3	16.8	29.0	41.3	71.5	47.9

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方1か月予報(7月25日から8月24日までの天候見通し)

令和8年7月23日 仙台管区气象台 発表

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。2週目は、気温がかなり高くなる可能性があります。
- 東北日本海側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

水 稲

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月15日現在の生育は、草丈、茎数、葉数とも平年並だった。
- 2 幼穂形成期には、平年並の7月9日に到達した。
- 3 出穂期は平年並の8月1日頃と推定される(7月15日現在)。

【生育観測ほの生育状況（品種：まっしぐら）】

年次	7月15日現在				穂 首 分化期 (月/日)	幼 穂 形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)
	草丈 (cm)	茎数		葉数 (枚)			
		(本/株)	(本/m ²)				
本年	71.5	21.0	416	11.0	7/ 2	7/ 9	(8/ 1 頃見込)
平年	71.4	20.1	419	10.8	7/ 1	7/ 9	8/ 1

注) 本年値は管内生育観測ほ（4地点）の平均値

平年値は昨年までの管内生育観測ほ（4地点）の平年値の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 水管理

(1) 出穂・開花期（出穂から10日間）は最も水を必要とする。

8月1日頃から8月11日頃となるため、この時期は水深5～6cmの水管理とする。その後は、間断かんがいを実施し、時々水を入れ替えて根の活力を維持する。

(2) 開花期以降、高温時や用水の水量不足の場合には、飽水管理（水尻を止水して2～3cmの水位まで入水後、自然減水し、溝や足跡に水が溜まっている状態になったら入水することをくり返す）を実施する。

(3) 高温時は、落水時期をなるべく遅らせて、稲体や根の活力を登熟後半まで維持し、適期に刈取・収穫する。落水時期は、湿田の場合は出穂から20日後、乾田の場合は出穂から30日後を目安とする。

2 病虫害防除

ア いもち病

葉いもち病は、ほ場をよく見回り、早期発見・早期防除に努めるとともに、出穂直前及び穂揃期の2回防除を徹底する。

イ 斑点米カメムシ類

- ・畦畔から水田への飛び込みを防ぐため、草刈りは出穂1週間前までに終える。
- ・やむを得ず出穂後に草刈りを行う場合は、本田への薬剤散布後速やかに実施する。
- ・薬剤防除は、

1回散布：穂揃期～穂揃7日後 又は 穂揃7～14日後（残効性が高い薬剤）

2回散布：穂揃期とその7～10日後（残効性が低い薬剤）

使用する薬剤の使用時期・回数を確認して適正に散布する。

例年被害の多いほ場やカメムシ類の発生が多くなっているほ場は、最終散布7～10日後に追加防除を行う。

ウ 紋枯病

出穂直前に防除を実施するとともに、前年発生の多かったほ場や多肥栽培により株が込み入って繁茂しているほ場は多発生が予想されるので、穂揃期にも追加防除を行う。

大豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、草丈、葉数とも平年を下回った。
- 2 湿害や病虫害による被害は見られていない。

【生育観測ほの生育状況（品種：おおすず）】

調査地	7月10日現在					
	草丈(cm)			葉数(枚)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
十和田市赤沼	34.8	37.3	61.6	4.6	5.4	6.4

注1) 平年値は平成22年～令和7年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病害虫防除

べと病やアブラムシ類、食葉性害虫の発生状況を確認し、適期防除に努める。

2 除 草

雑草の発生が多いほ場は、大豆の生育期に使用可能な除草剤で防除するか、中耕・培土によりほ場へすき込む。開花期以降に中耕すると、根を切断しやすく、生育抑制や落花につながるため、開花前までに作業を終了する。

ながいも

《生育状況》

- 1 県生育観測ほのネット頂到達日は平年より13日遅い7月19日であった。

7月10日現在の地下部の生育は、いも長、いも重、いも径とも平年を下回っている。

- 2 一般ほ場は、好天に恵まれ順調に植付けが進んだものの、6月中旬の低温によりやや新しいもの生育は遅れている。

病害虫では、ナガイモコガの食害が見られる。

【県生育観測ほの生育状況（種いも：1年子芽付き）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	つるのネット 頂到達日 (月/日)	7月10日現在		
					いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
東北町滝沢平	本年	5/12	5/28	7/19	11.5	3.7	6.4
	平年	5/9	5/29	7/6	14.2	8.2	9.0
	前年	5/14	6/2	7/1	19.0	15.0	13.4

注1) 平年値は平成28年～令和7年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 追 肥

追肥にあたっては、新しいもの生育状況を確認しながら、遅れないように実施する。

ア 早植栽培（4月下旬～5月上旬植付け）

- ・2回目、3回目の追肥を、それぞれ前回から10～14日間隔で行う。
- ・1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり5kg程度とする。

イ 普通栽培（5月中旬～6月上旬植付け）

- ・1回目の追肥時期は7月中下旬頃で、いも長が10～15cmを目安に行う。
- ・2回目、3回目の追肥は、それぞれ前回から10日間隔で行う。
- ・1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり5kg程度とする。

ウ 追肥の終了時期

早植栽培、普通栽培ともに、最後の追肥は8月20日までに終了する。

2 病虫害防除

葉渋病、炭そ病は、茎葉が繁茂する前から予防防除を行う。早植栽培では茎葉の繁茂が早いことから7月中旬～8月上旬に、普通栽培では7月末～8月中旬に10日間隔で2回程度薬剤散布を行う。

3 その他

強風や大雨に備え、ネットや支柱の補強及び明きょ等の排水対策を徹底する。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、草丈は81.6cm（平年比91%）、茎径は19.3mm（平年比90%）となり、いずれも平年を下回った。
- 2 一般ほ場の生育は概ね順調である。
- 3 病虫害の発生はさび病やべと病、斑点性病害がわずかに見られた。

【生育観測ほの生育状況（品種：夏扇パワー）】＊参考値

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	7月10日現在	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市洞内	本年	1/20	4/9	81.6	19.3
	平年	1/27	4/13	89.6	21.5
	前年	1/20	4/10	80.6	21.0

注1）平年値は令和2年～令和5年の参考値（この期間2粒まき）。令和6～8年は3粒まき。

《今後1か月間の主な作業》

1 病虫害防除

べと病、さび病、斑点性病害、アザミウマ類、ネギハモグリバエ等の防除を行う。防除は、薬害防止のため高温時を避ける。

2 その他

土寄せ、追肥、培土を計画的に行う。培土は、高温時を避けるほか、一畝とばしで行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、は種直後から乾燥が続いた影響から草丈は平年比47%、葉数は同78%と大きく下回り、生育が停滞している。
- 2 一般ほ場の生育は順調であるが、は種直後からの乾燥の影響が続いており、生育の揃いが悪いほ場や停滞しているほ場が見られる。
- 3 害虫による葉の食害が散見される。

【生育観測ほの生育状況（品種：柳川理想）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/ 7	29.7	3.1
	平年	5/ 5	62.9	4.0
	前年	5/14	39.1	4.3

注1) 平年値は平成28年～令和7年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

病虫害防除：黒斑細菌病、黒条病を主とした病害の予防防除、ヒョウタンゾウムシ類及びアブラムシ類の防除を行う。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの7月10日現在の生育は、草丈は平年比61%、いも数は同79%、いも重は同78%と平年を大きく下回った。品質は、軽度のそうか病が多く見られたが二次肥大は見られなかった。
- 2 茎葉処理(枯凋剤散布もしくは茎葉の抜取り)は、例年並の6月第6半旬から始まっている。また、7月第2半旬から収穫、第3半旬から出荷が始まっている。
(参考) 芽出し栽培は7月第2半旬から出荷が始まっている。
- 3 病虫害は、ニジュウヤホシテントウ、アブラムシ類が見られている。

【生育観測ほの生育状況（品種：メークイン、黒マルチ）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	開花期 (月/日)	7月10日現在		
					草丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三沢市庭構	本年	3/20	4/27	6/ 1	44.9	3,205	304.2
	平年	3/28	5/ 2	6/ 5	73.6	4,074	390.3
	前年	3/25	5/ 8	6/ 6	62.1	2,727	389.5

注1) 平年は平成28年～令和7年の10か年平均値

注2) 7月10日現在の草丈について、令和6年は調査前に枯凋処理が行われ、調査不可であったため、令和6年を除く平均値を平年とした。

《今後1か月間の主な作業》

- ・茎葉処理：枯凋剤の使用は、茎葉の黄変期～枯凋期（収穫14日前まで）に処理する。もしくは、収穫前7日～10日頃に茎葉の抜取り、または刈取りを行なう。
- ・収穫：茎葉の枯れ、いも表皮のコルク化を確認してからの適期収穫と、風乾を徹底する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の7月10日現在の果実肥大(横径)は平年並となっている。

生育観測ほの生育状況】

調査地	品種	7月10日現在の果実肥大(横径)				
		本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	ふじ	4.8	4.9	98	4.7	102

注1) 平年は平成28年～令和7年までの10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 摘 果

全体的に成らせ過ぎの傾向であるため、仕上げ後も再度点検し、適正な着果量になるまで見直し摘果を徹底する。

2 病虫害防除

モモシンクイガの産卵が続いているので、無袋栽培では毎回の薬剤散布にモモシンクイガの防除剤を混用する。腐らん病の発生が見られるので、枝腐らんは、見つけ次第切り取り、胴腐らんは再発病斑を含め、適切に処置を行う。

3 高温対策

日焼け果の発生防止に向け、早い時期からの強い葉摘みは避けるほか、高温時の徒長枝整理、支柱入れ、枝つりなどは控える。

ジョナゴールド等の中生種に落果が見られた場合は、落果防止剤を散布する。

苗木や若木、わい性台木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を確認し、乾燥している場合は1㎡当たり20リットル程度かん水する。

草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草をする。

牧 草

《生育状況》

一番草収穫後、適度な降雨があったことから、再生草の生育は良好となっている。

《今後1か月間の主な作業》

1 2番草の収穫及び追肥

オーチャードグラス主体の草地では草丈が70～80cmとなったら、地際より10cm以上で刈取りし、収穫後は速やかに追肥する。

2 草地の更新

牧草の収量が減少してきた草地は計画的に更新し、生産力の回復に努める。牧草のは種は9月中旬を目安に行う。

S

ア 土壌改良・は種床の造成

堆肥の散布・耕起を行い、石灰質資材やリン酸質資材を散布、砕土・整地しては種床を造成する。

イ 3～4週間放置

は種床造成後3～4週間放置し、雑草を十分に発芽させる。

ウ 除草剤散布（8月下旬～9月中旬）

雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布する。

エ は種・施肥・鎮圧（8月下旬～9月中旬）

除草剤散布後、雑草表面が乾いたら、牧草のは種と施肥を行い鎮圧する。なお、除草剤散布と同日には種できない場合であっても、できるだけ速やかには種する。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほ（7月20日現在）の生育は、草丈、葉数とも平年を大幅に上回っている。

【生育観測ほの生育状況（品種：スノーデント110）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月20日現在	
			草丈(cm)	葉数(枚)
東北町北栄	本年	5/16	197.8	15.0
	平年	5/19	171.7	12.2
	前年	5/16	251.7	12.0

注）平年値は、平成30年～令和7の8か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

特になし。